

阿麻和利の最後

照屋 牛五郎 (1898・M31) 字楚辺 (04 : 53)

アマンジャナーという人およ、屋良ムルチんかい捨
て子やてーるふーじ。あんしやてーるふーじやしが、
うぬ人おな、ちゃーしん人間お運命んちあくとう。
小さいになぎらっていん、其処から魚ん何ん取っ
ていが食らだーな、ちゃーしが成長いーたらーうれ
わからんしが、彼処をうてい成長いーてい、な一人
なてーるばーて。捨て子やしが。

あんさーに、次第次第、成長いーてい頑丈者な
くとう、また勝連城んかい百姓やしかなー使
てーるばーて。あんし、次第い力ぬ強くなたく
う、「な一城お、按司え殺ち私が大将なりわる」り
ぬ思いぬ有てーるばーてー。

ある場合なかい、海ん人頼り、漁民てー、「松明ち
きてい、船え幾ちん其処んかい寄して来よー」ん
ち、海ん人んかい頼まーに。海から松明ちきてい来
くとう、「今、彼処から戦ぬ来びーしが」んち、按司
え合図さーに出じゃさーに。海ぬ崖んかい、次第
してーゆううう、勝連按司え。あんし
から、勝連城ぬ按司なみそーちゃんてい、たったん
に。

あんしやししが、なーうれー、アマンジャラーりぬ者
お、阿麻和利りぬ者お、勢ぬどく強さるあく
う。なーちゃーしん天下あ私あ勝手しわるやるりぬ、
思いなやーにやてーるふーじやしが。あんしからまた、
中城御殿ぬくりがーな一私んかい、また其処んか
い弓引ち来くとう、女ん子ぬあーらちよーけーあね
ーさんむんち、女ん子、妻、ウナジャランかいし
みてーるふーじ。

【共通語訳】

阿麻和利はね、屋良ムルチに捨てられていたようだ。
だが、人間には持って生まれた運命というのがあるか
らね。阿麻和利は捨てられて、そこで魚などを取って
食べたのか、どのようにして暮らしていたのかは知ら
ないが、そこで成長したわけだ。

そうして、成長していくにつれ丈夫になり、勝連城
に使われた。そこで、次第に力をつけ、「城主（勝連按
司）を殺して私が大将になってやる」という思いにな
ったんでしょね。

ある時、阿麻和利は地元の漁師に「松明をつけて、
船を何隻もこちらに寄せてくれ」と頼んだ。そして、
漁師たちが、海の方から松明をつけて来るのを見計ら
い、「大変です、今、向こうから敵が攻めてきます」と、
城主を崖の方に誘い出し、隙を見て崖から突き落とし
た。そうして阿麻和利はあっという間に勝連城の按司
になったそうだ。

そうなんだが、この阿麻和利という者はあまりにも
野心が強く、もうなんとしてでも、天下を手に入れた
いと思うようになった。中山王は、そんな阿麻和利の
気配を察し、私に刃向かって来ることもあるかもしれ
ないと考えた。そして、娘をやれば逆らうこともない
だろうと、娘を阿麻和利のウナジャラ（王妃）として
嫁がせたそうだ。

なかぐすくくさまるじっさいざちみじよー
中城護佐丸お實際や座喜味城んかいめんしえ
やまだぐしくざちみじよーざちみ
たんでいよー。山田城から座喜味城んかい。座喜味
じよーちゆちゆく
城や、あぬ人ぬ造みそーちゃんてい。あんし、護
さまるやまだぐしくざちみじよー
佐丸お山田城から、座喜味城んかいめんそーち、
うんまぐしくちゆくすいぐしく
其処っち城造ていめんしえーしが。首里城ぬ、
ちゆうざんなかぐすくかつちんごさまる
中山ぬ、中城、「勝連とつぬたなかんかい、護佐丸
そーくかつちんじよーわにゆみひ
添てい来んあれー、勝連城から私んかい弓引くる
おそ
恐れぬあん」んち。あんさーに座喜味城んかいめん
なかぐすくひこ
しえーし、中城んかい引っ越しみそーちゃんてい。
ちゆうざんめいれい
中山ぬ命令してー。

あんしやしが、また阿麻和利え、「くれー護佐丸落と
すいぐしくすいぐしく
っしわる、首里城んかいやないる」んち、首里城
むーくすいぐしくゆくしむにー
んじ婿おやみしえーくとう。首里城んじ嘘物言し、
いちばのちゆーざぬがていの
あんさーに、一番お中山ん合点おしみそーらん
ばーなかぐすくこうじちゆう
てーるふーじやしが。うんぬ場や中城お工事中、
やーぢゆくこうじちゆう
家造いぬ工事中やたんでい。あんさーに其処から
ちけあまようすんうん
使えちかてい、彼処ぬ様子見じーが行ぢやくとう。な
ようすん
ーうれーまんもーうとうぬ様子る見ちよーくとう、は
わ
っきれー分からんてーるばーて。あんさーに、「あー
ひんとー
やいびさー、うぬふーじーやいびーさー」んち、返答
しちやくとう。

あんしえーな、じっさいくさまる
あんしやしが、また阿麻和利え、「くれー護佐丸落と
すいぐしくすいぐしく
っしわる、首里城んかいやないる」んち、首里城
むーくすいぐしくゆくしむにー
んじ婿おやみしえーくとう。首里城んじ嘘物言し、
いちばのちゆーざぬがていの
あんさーに、一番お中山ん合点おしみそーらん
ばーなかぐすくこうじちゆう
てーるふーじやしが。うんぬ場や中城お工事中、
やーぢゆくこうじちゆう
家造いぬ工事中やたんでい。あんさーに其処から
ちけあまようすんうん
使えちかてい、彼処ぬ様子見じーが行ぢやくとう。な
ようすん
ーうれーまんもーうとうぬ様子る見ちよーくとう、は
わ
っきれー分からんてーるばーて。あんさーに、「あー
ひんとー
やいびさー、うぬふーじーやいびーさー」んち、返答
しちやくとう。

あんしえーな、じっさいくさまる
あんしやしが、また阿麻和利え、「くれー護佐丸落と
すいぐしくすいぐしく
っしわる、首里城んかいやないる」んち、首里城
むーくすいぐしくゆくしむにー
んじ婿おやみしえーくとう。首里城んじ嘘物言し、
いちばのちゆーざぬがていの
あんさーに、一番お中山ん合点おしみそーらん
ばーなかぐすくこうじちゆう
てーるふーじやしが。うんぬ場や中城お工事中、
やーぢゆくこうじちゆう
家造いぬ工事中やたんでい。あんさーに其処から
ちけあまようすんうん
使えちかてい、彼処ぬ様子見じーが行ぢやくとう。な
ようすん
ーうれーまんもーうとうぬ様子る見ちよーくとう、は
わ
っきれー分からんてーるばーて。あんさーに、「あー
ひんとー
やいびさー、うぬふーじーやいびーさー」んち、返答
しちやくとう。

また、護佐丸が中城に来る前は座喜味城にいたそう
だよ。座喜味城は護佐丸がまだ山田城にいる時に築城
し、山田城から座喜味城に移ってきていたそう。し
かし、中山王は、「首里城と勝連城との間に護佐丸（中
城城）を置かないことには、勝連城から阿麻和利がこ
ちらに攻めてくる恐れがある」と。中山王の命令があ
って、座喜味城にいた護佐丸は中城へ移ったそう。

それで、阿麻和利は、「中山王の忠臣である護佐丸
を倒さなければ、首里城を落とせない」と考えたので
しようね。阿麻和利は婿の立場を利用して、首里城で
「中城の護佐丸が謀反を企てている」と嘘をついた。
最初、中山王は阿麻和利の言う事を信じていなかった
が、丁度その頃、護佐丸のいる中城は工事中だったそ
うだ。そこへ、使者を送って様子を探らせた。使者は
周囲から様子を見ただけなので、はっきりは分からな
いまま、「ああそうでしたよ、その通りでした」と返答
した。

護佐丸が謀反を企てるはずはないと、中山王には信
じがたい事だった。しかし、様子を見に行つた使者が
そう言ったものだから、中山王は阿麻和利の謀略には
まって中城の護佐丸のところへ軍勢を向けたわけだ。
護佐丸としても、それは思いもかけないことだった。
それが中山王の命令によるものだとしり、中山王に手
向かうわけにはいかないと、「私は清廉潔白だ」と言
って切腹したそう。

あんし、うぬ^{とっじ}妻、子ん^{くわ}全員^{むるくる}殺ち中^{なかぐすく}城^{どー}お、自分^{どー}ん
しっぶく
切腹^{しっぶく}しみそーん^{ちーあん}りしが。うっとうんぐわーや乳親^{ちーあん}ぬ、
ちゆい
うり一人^{いとうま}やな一^{ちーあん}暇^{そー}あゐーやーに、乳親^{うん}ぬ添^いてい行
ぢ。

あんしから、また中^{ちゅうざぬ}山^{あまわり}んかいな一、阿麻和利^{あまわり}え
しか
仕掛^{しか}き一^まるくとうん^まかいなて一^まるふーじ。やしが、
ちゅうざぬ
中^ま山^まんかいや、な一^ま負^まきてい。

すび
楚^あ辺^あぬ^あア一^あミン^あち^あ在^あん^あよ、ア一^あミ^あ原^あん^あち。其^あ処^あ、
せんげの
戦^{せんげの}前^{うしな}お闘^{ちゆく}牛^{ちゆく}場^{ちゆく}やたるば一、造^{ちゆく}て一^{ちゆく}たるば一^{ちゆく}て一、
うんま
其^{うんま}処^{うんま}あ^{うんま}モ一^{うんま}やん^{うんま}よ、また、ア^{うんま}カ^{うんま}ム^{うんま}イ。

うんま
其^{うんま}処^{うんま}ぬ^{うんま}え一^{うんま}か^{うんま}追^{うんま}っ^{うんま}てい^{うんま}来^{うんま}や一^{うんま}に。其^{うんま}処^{うんま}っ^{うんま}ち^{うんま}え一^{うんま}な
ちゅうざぬ
一^{ちゅうざぬ}中^{ちゅうざぬ}山^{ちゅうざぬ}な^{ちゅうざぬ}か^{ちゅうざぬ}い^{ちゅうざぬ}ぬ^{ちゅうざぬ}命^{ちゅうざぬ}令^{ちゅうざぬ}な^{ちゅうざぬ}か^{ちゅうざぬ}い^{ちゅうざぬ}押^{ちゅうざぬ}さ一^{ちゅうざぬ}っ^{ちゅうざぬ}てい^{ちゅうざぬ}、ア^{ちゅうざぬ}ン^{ちゅうざぬ}ミ^{ちゅうざぬ}
せ一^{ちゅうざぬ}ひ^{ちゅうざぬ}ち^{ちゅうざぬ}、ア一^{ちゅうざぬ}ミ^{ちゅうざぬ}ん^{ちゅうざぬ}ち^{ちゅうざぬ}付^{ちゅうざぬ}き^{ちゅうざぬ}た^{ちゅうざぬ}ん^{ちゅうざぬ}で^{ちゅうざぬ}い^{ちゅうざぬ}ぬ^{ちゅうざぬ}話^{ちゅうざぬ}。ア一^{ちゅうざぬ}ミ^{ちゅうざぬ}原^{ちゅうざぬ}
りん^{ちゅうざぬ}よ、其^{ちゅうざぬ}処^{ちゅうざぬ}あ。い^{ちゅうざぬ}え一^{ちゅうざぬ}りん^{ちゅうざぬ}殺^{ちゅうざぬ}さ^{ちゅうざぬ}り一^{ちゅうざぬ}が^{ちゅうざぬ}ひ^{ちゅうざぬ}ち^{ちゅうざぬ}や^{ちゅうざぬ}ら一^{ちゅうざぬ}、
やら^{ちゅうざぬ}ば^{ちゅうざぬ}か^{ちゅうざぬ}な^{ちゅうざぬ}ま^{ちゅうざぬ}あ^{ちゅうざぬ}う^{ちゅうざぬ}ん^{ちゅうざぬ}ま^{ちゅうざぬ}す^{ちゅうざぬ}び^{ちゅうざぬ}い^{ちゅうざぬ}一^{ちゅうざぬ}あ
屋^{ちゅうざぬ}良^{ちゅうざぬ}墓^{ちゅうざぬ}ん^{ちゅうざぬ}ち^{ちゅうざぬ}今^{ちゅうざぬ}ん^{ちゅうざぬ}在^{ちゅうざぬ}ん^{ちゅうざぬ}ど一^{ちゅうざぬ}其^{ちゅうざぬ}処^{ちゅうざぬ}、楚^{ちゅうざぬ}辺^{ちゅうざぬ}ぬ^{ちゅうざぬ}上^{ちゅうざぬ}ん^{ちゅうざぬ}か^{ちゅうざぬ}い^{ちゅうざぬ}在^{ちゅうざぬ}ん
ど一。あ^{ちゅうざぬ}ん^{ちゅうざぬ}言^{ちゅうざぬ}ち^{ちゅうざぬ}や^{ちゅうざぬ}ん^{ちゅうざぬ}り^{ちゅうざぬ}る^{ちゅうざぬ}話^{ちゅうざぬ}。

切腹の前には、妻と子どもたちを殺してから切腹し
たが、一番小さな乳飲み子だけは乳母に託したそうだ。

その後、阿麻和利は中山へ攻め入るつもりでいたよ
うだが、(真相を知った)中山に追われてしまった。

楚辺にはエンミ原(親見原)というのがあるんだが
ね。戦前、小高い野原になっていて、闘牛場として使
われていた。

阿麻和利は中山の軍勢にそこまで追い詰められて
来たそうだ。そこで、エンミ(降参)したので、エン
ミ原という名がついたという話だ。多分そこで殺され
たのでしょうね、阿麻和利の墓と伝わる屋良墓が今
でもそこにあるよ。そういった話さ。